

以下の問題〔I〕は必須問題です。
全員が解答してください。

〔I〕 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

芸術人類学とは、思うに、ありそうでなかった言葉です。しかし理由は簡単で、芸術のあつかう時間と人類学のあつかう時間とのあいだに、埋めるのがむずかしいギャップがありすぎるからではないでしょうか。芸術の歴史がいつから始まるかについてはいろいろな考え方があってでしょう。ひとつの目安として、美術史というものが考えられます。私たちのように美術大学と名のつく教育機関に属している者にとつては、教える側にとつても教わる側にとつても、もつとも身近な領域です。ところが、美術史がいつから始まったかについても、ことはそう単純ではありません。A、いま私たちが当然のものとして考えている美術史の体系は、人類の起源からあつたわけではないのです。考えてみればあたりまえのことですが、ギリシア・ローマの時代に美術史は存在していません。そう考えると、美術史というのは、ある時代から意図的に過去へとさかのぼって作られたジョジョツの形式だということがわかってきます。

では、いつ頃からこの遡行が行われたのでしょうか。先にギリシア・ローマと書いたとおり、私たちが知る美術史の規範となつてるのは、ギリシア・ローマにおける古典様式です。つまり、ギリシア・ローマの古典様式を美術史にとつての「古典」と位置付けた時点で、はじめて美術史そのものの骨子も成り立つたこととなります。それがいつかと問うなら、ルネサンスとということになるでしょう。「リ」再・ナイサンス＝誕生」とは、書いて字のごとく「再生」を意味します。けれども、いったい何を再生したのでしょうか。私自身の記憶をたぐってみても、教科書には「ルネサンス(文芸復興)」などと載っていて、いったいなんのことかと、わかつたようであつた記憶がありません。実際、先生もなぜルネサンスが「文芸復興」なのかまでは教

えてくれませんでした。でも、いまなら芸術人類学との兼ね合いで、もう少し踏み込んで考えることができます。

簡単に言ってしまうえば、ルネサンスが復興したのは、「生」という響きからもわかるとおり、人間という概念なのです。では、それまで人間は生まれていなかったのかというと、むしろ地球上に人類はいました。しかし、私たちが呼ぶような意味での人間はいなかった、というよりも忘れられていたのです。重要なのは、ルネサンスをもって「人間」が生み出されたのではなく、人間という概念が「復興」したということのほうです。私たちはいま「復興」を被災と結びつけて考える傾向があります。ならば、人間という概念が被災したのはいつのことでしょう。神によって抑圧された人間が世界の担い手としては軽視されていた「暗黒の中世」ということになるのかもしれませんが。

ギリシア・ローマの時代、狭くはヘレニズムの時代、人間は世界の主役でした。そこでは神でさえ人の似姿として表されていたのです。そしてほかでもない、人間が主役であるということを実践する舞台となるのが「学問・芸術」、つまり「文芸」であつたのです。B、ルネサンスを「文芸復興」と呼ぶのは、学問(もつと言えば科学)や芸術の担い手としての人間を、神学の暗がりから取り戻すことを意味します。もう少しはつきり言ってしまうえば、文芸復興とは、神への没入的な信仰よりも、人間が主体となつて世界のモウマイに挑み、自己をいきいきと表現することを意味するのです。このように考えれば、ルネサンスをもって芸術という概念が生まれたとすることも不可能ではありません。しかしそうすると、人類学と芸術学とのあいだのギャップは開く一方ということになってしまいます。そんな狭間を抱えたまま、はたして芸術人類学は成り立つのでしょうか。

「人類がおのれを主体的に表現しない、つまり芸術をものしなかったのは、かれらがまだ人間ではなかったからです。そんなことよりはるか前に、かれらは種として生き抜かなければなりませんでした。自然に翻弄され、信仰にすがって生きるしかなかったのです。けれども考えてみれば、そのように生きなければならなかったこと自体は、ルネサンスが開花し、人間が世界の主役になつたように見える世界でも、本質的にはなにも変わっていません。人間はベストの大流行やリスボンの大地震の前に、まったくすすべを持ちませんでした。その点では、ルネサンスが規範としたギリシア・ローマにおいても、なんの違

いもないのです。C、ギリシア・ローマの文明は地理学的に言つてより過酷な東方で生まれ、ルネサンスの時代以上に自然の猛威との直面は避けられませんでした。そもそもルネサンスとは、ギリシア・ローマに対して方位的に北方的な性質を持ちます。言い換えれば、ギリシア・ローマを生きる「人類」から人間的な要素を抽出し、「文芸」という概念へと高めたのがルネサンスだったのだと言つてもいいくらいです。その点では、新たな「人間」と言えども「人類」であることを根本からコクフクしたわけではまったくくないのです。

としたら、私たちは芸術人類学という名称自体についての先入観をいちから見直す必要があるのかもしれませんが。芸術人類学というと、ふつうなら芸術について人類学的に考察する、ということになります。英語表記の「Art Anthropology」なら、芸術と人類学を同格に扱うというニュアンスのほうが強いから、逆に人類学について芸術的に探究するとしてもまちがいでありません。というよりも、本来ならこの両者を双方向的に行き来できるようにするのが「芸術Ⅱ人類学」の営みのはずです。しかし、すでに触れたように、そこには大きなギャップが残ります。芸術は人間に固有の性質であり、人類が人間でなかった頃、つまり人類が人類であるかぎり、そこには芸術がない。では、いったいどのようにすれば、芸術学であり、同時に人類学であるような領域が成り立つのでしょうか。

こう考えてみてはどうでしょうか。かつて人類には芸術がなかったのだとしても、では表現に当たるものはなかったのか——たとえば縄文土器や洞窟壁画は、あれは表現ではないのでしょうか。確かに芸術ではないにせよ、表現ではあるように思われるかもしれません。だが、厳密にはこれもそうではないのです。表現が成り立つためには他と区別された自己が必要ですが、縄文土器や洞窟壁画は周囲から独立した個人のための表現ではないからです。それ如果说ば事態は逆で、縄文土器や洞窟壁画はむしろ、特定の集団のために作られ、描かれました。荒ぶる自然からかれらを守る祈りや願い、儀礼や祝祭のため、それらがどうしても必要だったのです。ですが、縄文土器や洞窟壁画をそのように受け取ったたん、先にも触れたとおり、私たち人間もまた、それらをコクフクしたわけではないことに、ただちに気付きます。としたら、芸術と人類学との関係は、もしかししたら逆なのかもしれません。芸術を人類学的に考察するのではなく、私たちが芸術と呼ぶもののなかに人類学的な要素

はないか見つめ直してみることこそ、芸術人類学(Art Anthropology)の役割があるのではないのでしょうか。ルネサンスの一大転回に立ち戻つて考えれば、ルネサンス以降に確立された人間と学問、科学や芸術といった枠組みのなかに、依然として残る人類の痕跡を浮かび上がらせるのが、私たちにとつての芸術人類学の営みなのではないでしょうか。

かつて岡本太郎は、薄暗い展示室の片隅で縄文土器と巡り合い、これこそが古代人の芸術であり表現なのだと喝破しました。それまでの日本では考古学資料としてしか扱われることがなく、見る者ひとりひとりが表現として対峙することがなかった縄文土器をそのように見つけ直すことができたのは X なことですし、とりもなおさずそれは、岡本太郎がバリ時代にマルセル・モースを通じて民族学、文化人類学的なまなざしを獲得していたからにはかなりません。でも、それだけでは芸術人類学を先取りしたということにはならないのです。すでに見てきたとおり、人類史上の古層へと芸術論Ⅱ表現論的なまなざしを向けることは、概念の成り立ち上、実はとても難しいのです。無理にそれを行えば、古代の諸相を近代以降の枠組みで捉え直してしまうという過ちを容易におかしてしまうことになるでしょう。だからこそ、私たちにできるのは近代以降、自明のものとなつてしまつていく芸術や美術、表現といったルネサンス以降の転回をこそ、そのような力を得られずにいた人類の視点から見直してみることなのではないでしょうか。たとえば作品や作者、素材や制作年、展示やサイズといった、芸術(この場合は美術作品)にとつてごく当たり前の自律した枠組みそのものを疑い、それらをたちどころにムサンさせてしまいかねない荒ぶる自然との拮抗のなかで捉え直してみることのなかにこそ、芸術人類学の目指すところがあるのではないのでしょうか。

端的に言えば、それは「祈り」ということになるでしょう。祈りと言つてもこの場合、必ずしも Y に根ざす必要はありません。人類にとつての祈りとは、宗教だけの特権ではないからです。自然が備える計り知れない力に気付くとき、私たち人間は、いついかなるときにあつても、直ちに無力な人類へと還らされてしまいます。そんなとき、私たちにできることと言つたら、せいぜいが祈ることくらいしかありません。人類が人間となつてなお、自然を抜本的にコクフクしたわけではない以上、人間はいつでも潜在的には人類なのであつて、その意味では人間は人類にとつての上位概念ではないのです。というよ

り、人類は人間にとって潜在的な概念なのです。この潜在的な性質を芸術に当てはめ、芸術のなかに隠された「祈り」を浮かび上がらせる試みこそ、芸術人類学と呼ばれるにあたります。

その意味でも、芸術人類学は文化人類学とは決定的に異なるものですし、そのゲンリユウにある民族学がもともとはデュルケームの社会学に発するものであり、デュルケームそのものが社会の理念型として未開社会を捉えていた以上、民族学や文化人類学は依然として社会学の余波を色濃く残しているのは当然なことです。けれども、私たちがいま向かっているのは、社会を輪郭付けすることではなく、まったく逆に、世界の未明性へといつのまにか運ばれ、そこからいやおうなしに身を投げることであって、そのために必要なのは、既存の理念型に倣うことをむしろ放棄し、ますます自己組織化へと向かう人文諸科学を根本から疑ってみる批評的実践なのです。確認しておかないといけないのは、芸術人類学は民族学や文化人類学の発展系ではなく、ましてや宗教学や映像人類学のように、より細分化されたその下位概念のでもなく、ある意味、まったく別のところに確立されるべき未知の探究だということです。芸術人類学にとって、社会学ほど遠い隣接領域はないのです。学問としての民族学への批判という性質をその成り立ちから持つ柳田國男や折口信夫による「民俗学」の提唱や、芸術に対して「民藝」や「呪術」を対置した柳宗悦や岡本太郎の実践がおおいに参照源となるのは、そのためです。

いずれにせよ芸術人類学とは、芸術が自然の前にまったくの無力であることを思い知らされるとき、その担い手であるはずの人間が、一気に人類へと崩落する瞬間から垣間見えるようになる危機的な事態を、容易には消えてくれない「祈り」の諸相からいかに捉えるか、ということに多くを負っています。

芸術人類学の名のもと、本来なら芸術にとつては異例であるはずの大量死をとまなう戦争や災害、そして事故、また人間が人間でなくなるような隔離や孤絶の意味を重んじるのは、そのためにほかありません。

(榎木野衣「爆発、丸石神、グランジニョルな未来」による)

(注1) 岡本太郎「日本の芸術家(一九一一―一九九六)。一九三〇年代をパリで過ごし、画家としての表現を模索しながら、パリ大学でマルセル・モースに師事し、民族学、文化人類学を学んだ。

(注2) マルセル・モース「フランスの社会学者、人類学者(一八七二―一九五〇)。未開社会の贈与や交換などの社会学的性質を明らかにし、宗教学や経済学など諸学に多大な影響を与えた。

(注3) デュルケーム「エミール・デュルケーム(一八五八―一九一七)。フランスの社会学者。ドイツのマックス・ウェーバーと並び、近代の社会学の根幹を作った。社会的事実を客観的に考察する科学としての社会学の方法論を確立した。

(注4) 柳田國男「日本の民俗学者(一八七五―一九六二)。日本人の生活慣習や歴史伝承、民俗信仰に関する著作を残し、庶民の歴史や文化を明らかにしようとした。

(注5) 折口信夫「日本の民俗学者、国文学者(一八八七―一九五三)。柳田國男に師事して日本民俗学を開拓する。国学の研究法に民俗学の研究法を合わせ、古代から現代に至る日本人の伝承を研究し、文学の中に原初的古代を見出そうとした。

(注6) 柳宗悦「日本の美術評論家、思想家(一八八九―一九六二)。庶民の暮らしから生まれる美の世界に価値を見出そうとする「民藝運動」の立役者となった。

問一 本文中の空欄 A C に入る最も適切な語句を、次の①～⑤からそれぞれ一つずつ選べ。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|-------|---|------|---|------|
| A | ① | ゆえに | ② | そこで | ③ | そもそも | ④ | 例えば | ⑤ | ところが |
| B | ② | それでは | ③ | あるいは | ④ | こうして | ⑤ | しかし | ⑥ | 要するに |
| C | ③ | ひいては | ④ | むしろ | ⑤ | だからこそ | ⑥ | とにかく | ⑦ | よって |

問二 本文中の「線p」「骨子」・q「翻弄」・r「対峙」の本文中の意味として最も適切なものを、次の①～⑤からそれぞれ一つずつ選べ。

p…骨子 4

- ① 物事の根本的な性質。
- ② 物事を形づくる各要素の組み合わせ。
- ③ 物事を構成する整然とした全体。
- ④ 物事を成り立たせる最も重要な点。
- ⑤ 物事のたまかな流れ。

q…翻弄 5

- ① わざとばかげた言動をとること。
- ② 人を気まぐれに振り回すこと。
- ③ 本気ではなく、遊び半分で行動すること。
- ④ 苦しさを紛らして、忘れようとする事。
- ⑤ 権力を用いて、人の運命を決めること。

r…対峙 6

- ① 互いに向かい合って、直面する状態のこと。
- ② 張り合う相手と、対面で決着をつけようとする事。
- ③ 互いに反対の関係にあるものが、共通性を見出すこと。
- ④ 対面する相手に対して、色々と尋ねること。
- ⑤ 対立する相手と直面して、動けなくなる事。

問三 本文中の「線ア」「人間」という概念が被災したとあるが、どういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 7

- ① 芸術や科学への探究心が失われ、個性を尊重する表現がなくなる事。
- ② 縄文土器や洞窟壁画のように、個人の表現がないため芸術が成り立たない事。
- ③ 自然の猛威に翻弄され、信仰のみにすがって生き抜こうとする事。
- ④ ギリシア・ローマ時代の人間観や文芸を、価値なきものと捉える事。
- ⑤ 神が世界の主役であって、人間は、神によって抑圧されて、主体性を失った事。

問四 本文中の空欄 X・Y に入る最も適切な語句を次の各群の①～⑤からそれぞれ一つずつ選べ。

X… 8

- ① 偶然的
- ② 観念的
- ③ 必然的
- ④ 画期的
- ⑤ 挑戦的

Y… 9

- ① 人類
- ② 自然
- ③ 信仰
- ④ 人間
- ⑤ 芸術

問五 本文中の「線イ」「芸術人類学(Art Anthropology)」の役割とあるが、その説明として適切でないものを、次の①～⑤から一つ選べ。 10

- ① 現代の芸術のなかに、日常的に生まれる自然に対する畏怖や救済への願いを見出す事。
- ② ルネサンス期の芸術のなかに、神への祈りを読み取る事。
- ③ 縄文土器や洞窟壁画のなかに芸術的な表現を見出す事。
- ④ 芸術のなかに人間にとつての潜在的な概念である人類の痕跡を見出す事。
- ⑤ 科学や芸術の枠組みから人類の痕跡を浮かび上がらせる事。

問六 次の文章は、本文中に登場する——線ウ「岡本太郎」が著書の中で述べた一節である。彼の言う「呪術」に近い意味で用いられている表現として適切なものを、本文中の……部(1)～(5)から二つ選び、後の①～⑤で答えよ。なお、解答の順序は問わない。

11 12

人間社会には原始時代から社会構成の重要な要素として「呪術」があった。超越者との交流、それは社会生活の根源であり、政治、経済はそれによって支えられていた。呪術は目的のようには見えていながら、人間の非合理的なモメントにこたえ、逆に命の無目的な昂揚を解き放つ力を持っていた。

ところが、現代社会では、呪術の目的な役割だけが科学技術によって受けつがれ、拡大されている。もう一つの、混沌と直結し、超越と対話する、人間存在の根源の神秘の力に通じる面は、無価値のように顧みられない。

また、宗教はかつての力を失い、絶対感を喪失してしまった。それを今日生きかえらせうるのは「芸術」であろう。

(岡本太郎『自分の中に毒を持って あなたは「常識人間」を捨てられるか』による)

- ① 人間という概念
- ② 人間が主役であるということを端的に実践する舞台
- ③ 荒ぶる自然からかれらを守る祈りや願ひ
- ④ 民族学、文化人類学的なまなざし
- ⑤ 芸術のなかに隠された「祈り」

問七

本文中の——線エ「芸術人類学は文化人類学とは決定的に異なる」とあるが、文化人類学と芸術人類学の違いとは何か。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

13

- ① 文化人類学は、未開の文化集団のなかに社会のシステムを見出そうとする学問であるのに対し、芸術人類学は、未開であれ文明化された社会であれ、そこに立ち現れる「人類」による根源的な表出を探究する学問である。
- ② 文化人類学は、西洋人が非西洋圏の文化を未開社会とみなすデュルケームの社会学に端を発するのに対して、芸術人類学は、最先端の思想と技術を用いた現代の学問である。
- ③ 文化人類学は、異文化理解のために未開社会の「祈り」を調査するのに対して、芸術人類学は「祈り」の内容にかかわらず、それを人類の根源的な生命力として捉えることを意義とする。
- ④ 文化人類学は、「人類」の芸術思考を考察するのに対して、芸術人類学は、「人類」と「人間」双方の芸術思考を考察する。
- ⑤ 文化人類学は、中世キリスト教世界における信仰から解放された「人間」の文化の探究であるのに対して、芸術人類学は「人間」と「人間」に潜む「人類」の芸術を探究する学問である。

問八

本文中の「線才」芸術人類学の名のもと、本来なら芸術にとっては異例であるはずの大量死をとまなう戦争や災害、そして事故、また人間が人間でなくなるような隔離や孤絶の意味を重んじる」とあるが、なぜそのように言えるのか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

14

① 「人間」は、現代においても蜜行を繰り返し「人類」へと崩落しているが、そうした危うい状況においても消えることのない「芸術」が、人間を改心させ、平和をもたらすから。

② 被災地において、自然の脅威におびえながらも生きぬこうとする「人間」の「祈り」は、「人類」の根源的なものでもあり、それは「人間」の創造する「芸術」に通じるから。

③ 大自然の猛威に破壊された被災地では、食料や医療品の援助やライフラインの復旧が優先され、「祈り」や芸術の必要性を問うこと自体が不謹慎と思われるから。

④ 自然の脅威や恩恵によって育まれてきた人類の創造を「芸術」とみなし、その「芸術」を通して、社会のあり方を提示し、「人間」を尊重することが、芸術人類学の目標であるから。

⑤ 芸術人類学は、文明人の「芸術」よりも人類の未開の思考を重視するものであり、そこには戦争や人間の隔離の不当性が示されているから。

問九 本文中の「線 a」のカタカナを漢字にしたときと同じ漢字が使われるものを、次の各群の①～⑤からそれぞれ一つ選べ。

a ジョジュツ

15

- ① ジョシユセキに座る。
- ② チツジヨを重んずる。
- ③ 春のジョクンの内示を受ける。
- ④ 雨がトツジョ降り出す。
- ⑤ 候補からジョガイする。

b モウマイ

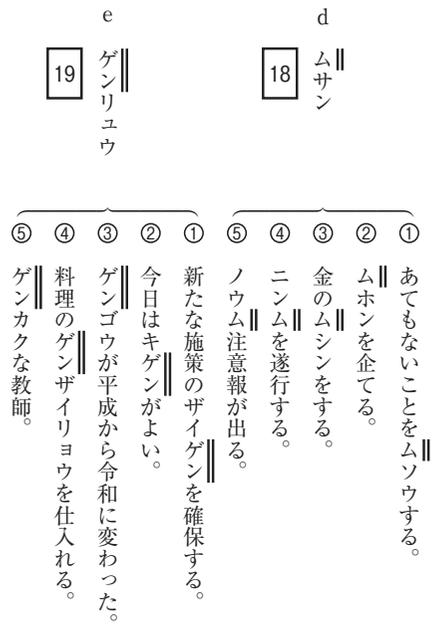
16

- ① 今年はモウシヨだ。
- ② モウソウを膨らませる。
- ③ 恋はモウモクだ。
- ④ ケイモウ活動を行う。
- ⑤ 情報をモウラする。

c コクフク

17

- ① 彼は兄とコクジしている。
- ② 労働者が内部コクハツする。
- ③ 中立主義をコクゼとする。
- ④ 大麦をダツコクする。
- ⑤ コクメイに記す。



以下の問題〔Ⅱ〕と〔Ⅲ〕は選択問題です。どちらかを解答してください。〔Ⅱ〕と〔Ⅲ〕を両方解答した場合は、高得点の方を合否判定に使用します。

〔Ⅱ〕 次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、本文上段にある①等の丸数字は段落番号である。

① 「利他」とはなにか。

② 利他について研究を始めたとき、私は実は利他主義という立場にかなり懐疑的な考えを持っていました。懐疑を乗り越えて、A 「利他ぎらい」といういいほどでした。

③ 私はこれまで、目の見えない人や吃音きつおんの人、四肢切断した人など、さまざまな障害を持っている人が、どのように世界を認識し、その体をどのように使いこなすのかを調査してきました。

④ 理由は追って説明しますが、障害のある人と関わるなかで、利他的な精神や行動が、むしろ「壁」になっているような場面に、数多く遭遇してきたからです。「困っている人のために」という周囲の思いが、結果として全然本人のためになっていない。利他は利他的ではないのではないかと？ そんな敵意のような警戒心を抱くようになっていたのです。

⑤ でも、だからこそ思いました。利他のことを正面から考えてみたい、と。なんてあまのじゃくなんだ、と思われるかもしれませんが。けれども研究者というのは、得てして本人にとってよく分からないもの、苦手なものを研究対象とするものなので

⑥ そして、実は多くの人が、「利他という言葉は聞けけれどその実態はよく分からない」と感じているのではないかと思

⑦ キリスト教の「隣人愛」や、浄土真宗の「他力」など、利他の考え方は伝統的に宗教的な価値観と密接に結びついていました。

こうした背景を理解することは重要ですが、「はじめに」でお話ししたとおり、現代における利他という言葉は、しばしば宗教的な文脈とは切り離されて流布するようになっていきます。その結果、「利他」の輪郭もかなり曖昧なものになっているように思えます。

⑧ たえば、利他という自己を犠牲にするイメージがあります。利他的な社会とは、お互いにちよつとずつ我慢しなければならぬような社会なのでしょうか？

⑨ あるいは、共感の問題。利他と共感の関係は、利他をめぐる古典的な争点のひとつですが、利他に共感が必要だとしたら、共感できる人にだけ利他的に振る舞い、共感できない人に対しては、利他的に振る舞わなくてもよいのでしょうか？

⑩ こうした疑問を念頭に置きつつ、第一章では、現代社会が置かれた状況にフォーカスを合わせながら、これまでの研究プロジェクトを通してみてきた「利他のかたち」について、お話ししてみたいと思います。

① B、「はじめに」でもとりあげた経済学者ジャック・アタリの利他主義について考えていきましょう。

② アタリは、以前からパンデミックを予想し、地球に迫る危機について警鐘を鳴らしてきました。そのなかで、彼は地球を救うために必要な利他主義の重要性を強く主張してきました。

③ アタリの利他主義の特徴は、その「合理性」です。^{（注）}件のNHKの番組でも、アタリはこう語っています。

④ 利他主義とは、合理的な利己主義にはかなりません。みずからが感染の脅威にさらされないためには、他人の感染を確

実に防ぐ必要があります。利他的であることは、ひいては自分の利益になるのです。またほかの国々が感染していないことも自国の利益になります。たとえば日本の場合も、世界の国々が栄えていけば市場が拡大し、長期的にみると国益にもつながりますよね。

⑤ 合理的利他主義の特徴は、「自分にとっての利益」を行為の動機にしているところです。他者に利することが、結果として自

分に利することになる。日本にも「情けは人のためならず」ということわざがありますが、他人のためにしたことの恩恵が、めぐりめぐって自分のところにかえってくる、という発想ですね。自分のためになるのだから、アタリの言うように、利他主義²は利己主義にとって合理的な戦略なのです。

⑥ こうした考え方は、いうまでもなく、利他主義は利己主義の対義語である、という伝統的な考え方を意図的に転倒させたものなのです。

⑦ 「利他主義 Altruism」という言葉は、フランスのオーギュスト・コントによって、一九世紀半ばに提唱されるようになった、比較的新しい造語です。「altru」は古フランス語で「他者」のこと。元になったラテン語は「alter」ですから、これは「オルタナティブ（別の、ほかの）」という言葉をイメージすると分かりやすいですね。

⑧ コントが利他主義と言ったとき、この言葉は「利己主義 Egoism」に對置される言葉として想定されていました。コントにとって利他主義とは「他者のために生きる」こと、つまり自己犠牲を指していたのです。

⑨ こうしたコントの考え方からすると、合理的利他主義の考え方は、まさに「ルーツをひっくりかえす」³発想であるといえます。これをどう考えるかについては、またあとで述べたいと思います。いずれにせよ、合理的利他主義は、現代の利他をめぐる主要な考え方のひとつとなっています。

⑩ 利益を動機とするという点で合理的利他主義の特徴をさらに推し進めたのが、効果的利他主義です。効果的利他主義の考え方は、日本人の感覚からするとちよつとギョツとしてしまうところもあるのですが、二〇〇〇年代半ばごろから、英語圏を中心とする若者エリート層のあいだでかなりの広がりを見せています。

① 効果的利他主義の理論的支柱となっているのは、哲学者のピーター・シンガーです。彼は、効果的利他主義の原則を、端的にこう述べています。

② 効果的な利他主義は、非常にシンプルな考え方から生まれています。「私たちは、自分にできる（いちばんたくさん）の

いこと)をしなければならぬ」という考え方です。

『あなたが世界のためにできるたったひとつのこと——(効果的な利他主義)のすすめ』

② 自分にできる(いちばんたくさんいいこと)。ポイントは、「いちばんたくさん」というところにあります。最大多数の最大幸福。つまりこれは「X 主義」の考え方です。

④ 効果的な利他主義は、単に「X 主義をと定めるにとどまらず、幸福を徹底的に数値化します。たとえば自分の財産から一〇〇〇ドルを寄付しようとする場合、それをどの団体に、どのような名目で寄付をすると、もっとも多くの善をもたらすことができるのか。得られる善を事前に評価し、それが最大になるところに寄付の対象を定めることによって、効率よく利他を行おうとするのです。

⑤ シンガーの本から具体的な例を引いてみましょう。アメリカで盲導犬を一頭養成するのに必要な金額は四万ドルである、という数字があげられています。これは発展途上国でトラコーマという目の病気を四〇〇〇人から二〇〇〇人治療できる金額に相当します。ならば、アメリカ国内での盲導犬の養成よりも、発展途上国での治療のためにお金を払ったほうが、より多くの目の悪い人を助けることができる。つまり「より多くのいいこと」ができるので、発展途上国のトラコーマ治療のために寄付をしたほうが効果的である、と判断されることとなります。

⑥ 実際、アメリカを中心にさまざまな効果的な利他主義の団体が立ち上がっていますが、そのウェブサイトを見ると、行われているのは徹底的な「評価と比較」です。シンガーの著作名を冠した「The Life You Can Save」というサイトでは、「Best Charities」としてオススメの効果的な寄付先のリストが用意しており、ボタンひとつで手軽に寄付ができるようになっています。

⑦ あるいは「Giving what we can」というサイトでは、居住地、年収、家族構成を入力すると、自分が裕福さにおいて世界の上位何%に入るかが示され、年収の一〇%を寄付することによって、蚊帳^{かや}であれば何張、寄生虫症の薬であれば何錠、健康な生活であれば何人分贈ることができるかが、一瞬で分かるようになっていきます。

⑧ 効果的な利他主義は、なぜここまで数値化にこだわるのか。それは、利他の原理を「共感」にしないためです。

⑨ 最近親戚^{しんせき}ががんで亡くなったから、がん治療の研究をしている組織に寄付しよう。

⑩ 職場に視覚障害者がいるから、盲導犬の育成を行っている団体に寄付しよう。

① こんなふうに考えるのが、共感にもとづく利他だ、と彼らは言います。日本風にいえば、「縁」があったもの、精神的物理的に近いものに対して、施しをしようとする。

② ところが、効果的な利他主義は、こうした共感にもとづく利他を否定します。共感にもとづいて行動してしまうと、ふだん出会うことのない遠い国の人や、そもそもその存在を意識していない問題にアプローチできないからです。

③ もちろん、だからといって、効果的な利他主義者も共感そのものを否定するわけではありません。しかし、利他的な行動が共感に支配されないようにすること、共感よりも理性にもとづいて利他を行うことが重要である、と仰うのです。シンガーの言葉を引きみましょう。

④ 効果的な利他主義者は、(中略)ともすれば人生を支配してしまいがちな個人的な思い入れから、自分を切り離すことができているのです。個人の思い入れを切り離すことがすべてではありませんが、それが生き方に大きな違いをもたらしています。その根底には、自分の「傾向や好みや愛情」から独立した視点で、自身の生き方を評価するような、理性の力があります。

(同前)

⑤ 実際にこの動きに賛同している若い人たちのなかには、就職先を選ぶときにも、共感よりも数字を重視する動きがあるといえます。仕事の内容そのものが利他的であるかどうかではなく、数字のうえで利他的な仕事、つまりいちばん儲かる、ゆえに

いちばんたくさん寄付できる職に就くことを選ぶのです。

- ③ たえば、シンガールの本のなかで、プリンストン大学哲学科を最優秀論文賞を受賞して卒業した若者の話が紹介されています。その若者は、利他心が非常に強かったのですが、オックスフォード大学の大学院に進む道を蹴って、ウォール街に就職したというのです。利他とは対極にも思える、生き馬の目を抜くような金融街に飛び込んで、株のトレーダーになったのです。
- ④ これまでの価値観であれば、他者のために働きたいと考える若者なら、慈善事業を行うNPOに就職したり、社会起業家になつたり、あるいは研究者になつたりするケースが多かつたでしょう。

⑤ C この若者は、限られた給料しかもらえない仕事に就いて、その一割を寄付するよりも、ウォール街でめいっぱいお金を稼いで、その給料の半分を寄付したほうが、人のために働くには効果的だと考えたのです。彼の目標は「貧困にあえぐ子どもたち一〇〇人の命を救う」だったのでありますが、それをわずか一、二年で成し遂げました。

(伊藤亜紗編『利他』とは何か『第一章』「うつわ」的利他―ケアの現場から―による)

(注1)「はじめに」―筆者は本文のこれより前の部分で、経済学者ジャック・アタリの利他主義について述べている。

(注2)件のNHKの番組―筆者は本文のこれより前の部分で、二〇二〇年四月一日NHK放送「ETV特集 緊急対談 パンデミックが変える世界―海外の知性が語る展望―」における経済学者ジャック・アタリのことを紹介している。

問一 本文中の空欄 A C に入る最も適切な語句を、次の①～⑤からそれぞれ一つずつ選べ。

- | | | | | | | | | | |
|------|-------|---|-----|---|------|---|------|---|------|
| A: ① | それゆえ | ② | ただし | ③ | つまり | ④ | むしろ | ⑤ | もちろん |
| B: ② | したがって | ② | そして | ③ | つぎに | ④ | まず | ⑤ | また |
| C: ③ | しかも | ② | そこで | ③ | その結果 | ④ | ところが | ⑤ | なぜなら |

問二 ―線ア「あまのじゃく」・イ「生き馬の目を抜く」の本文中の意味として最も適切なものを、次の①～⑤からそれぞれ一つずつ選べ。

ア: 「あまのじゃく」 ④

- ① 人と親しくしない者。
② 人に本心をみせない者。
③ 人とはわざと反対の行為をする者。
④ 人に負けたくないと思う者。
⑤ 人に比べ気位が高い者。

イ: 「生き馬の目を抜く」 ⑤

- ① 習慣化していた癖がなくなること。
② 物事の動きがすばやくて、油断のならないこと。
③ 残忍冷酷で競争において手段を選ばないこと。
④ 神に生贄を捧げること。
⑤ 厳しく困難な状況から逃げること。

問三 本文中の——線1「こうした疑問」についての説明として適切でないものを、次の①～⑤から一つ選べ。 6

- ① 利他と共感の関係は利他をめぐる古典的な争点のひとつであり、自分が共感できる人だけに利他的に行動すればよく、共感できない人に対しては、利他的に振る舞う必要はないのかという疑問。
- ② 利他には自己犠牲を前提としている印象があるため、利他的な社会とは、個々人の我慢の積み重ねによって成立している社会ではないかという疑問。

③ 障害のある人と関わるなかで利他的な精神や行動の意義を感じたことから、利他の考え方の基本には「困っている人のために」という配慮が必要なのではないかという疑問。

④ 現代における利他という言葉は、しばしば宗教的な文脈とは切り離されて流布するようになった結果、その輪郭も曖昧なものになっているのではないかという疑問。

⑤ 利他という言葉は聞くけれど、その実態はよく分からないと考えている人もいるのではないかという疑問。

問四 本文中の——線2「利他主義は利己主義にとつて合理的な戦略」とあるが、筆者がそのように述べる理由は何か。次の(1)

⑤のうち、理由の説明として適切なものには①を、適切ではないものには②を、それぞれマークせよ。

(1) 他者の利益を最大化するためには、自分の利益は後回しにすべきだから。 7

(2) 他者の利益が拡大すれば、自分の利益も拡大する可能性があるから。 8

(3) 情けをかけることは、他者のためにならないから。 9

(4) 他者の感染を防ぐために、マスクを着用することは、自分の感染を予防することにもつながるから。 10

(5) 自宅の玄関前をきれいに掃除することは、地区全体の美化につながるから。 11

問五 本文中の——線3「ルーツをひっくりかえす」とは、どういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 12

① 利他主義の語源となったラテン語と利己主義の語源となったラテン語は同義語であるが、現代における合理的利他主義の発想と正反対であること。

② 利他主義はキリスト教の「隣人愛」や浄土真宗の「他力」といった価値観に結びついているが、現代における合理的利他主義の発想においては反対の意味合いで用いられていること。

③ 現代において利他主義は「他者のために生きていること」と理解されているが、これは一九世紀半ばに提唱されるようになった比較的新しい造語であり、その語源は逆に「自分にとつての利益」を意味していたこと。

④ 利他主義という言葉の語源は、利己主義の対義語を想定していたが、合理的利他主義の発想はこの伝統的な考え方を覆すものであったこと。

⑤ 利他主義を提唱したオーギュスト・コントは、特に合理的利他主義に注目したが、利己主義という言葉に対する考え方の意図的な転回を試みたということ。

問六 本文中の——線4「日本人の感覚からするとちょっとギョッとしてしまう」とあるが、なぜか。その理由の説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 13

① 寄付文化が定着しているものの、私財をなげうって巨額な投資をするには抵抗があるから。

② 伝統的に「縁」を大切にし、精神的物理的に近いものに対して寄付することが常識だから。

③ 日本とは異なり英語圏では、効果的利他主義という考え方が、若者エリート層のあいだで普及しているから。

④ 自分の「傾向や好みや愛情」から切り離れた視点で寄付する対象を定めることが当たり前だから。

⑤ 効果的利他主義では、幸福を数値化することよりも質的に評価することを主眼に置いているから。

問七 本文中の空欄 X に入る最も適切な語句を次の①～⑤から一つ選べ。

- ① 完璧 ② 功利 ③ 多元 ④ 世俗 ⑤ 平和

問八 本文中の——線5「徹底的な『評価と比較』に基づいて、自分の貯金を寄付する場合、筆者が説明する『効果的利他主義』と合致しないものを二つ選べ。なお、解答の順序は問わない。

15 16

- ① 自分の親戚にどれくらい心疾患で亡くなった人がいるか調べ、それに応じた金額を専門の研究機関に寄付する。
② 自分の貯金が世界の上位何%に当たるか調査した上で、最も多くの人の健康を改善するためにその何%を寄付すべきか決める。
③ 自分が応援しているスポーツチームが実施する災害復興支援事業に寄付する。
④ 自分のやりたい仕事内容より、給料の金額を優先して就職先を選択する。
⑤ 自分の貯金額に応じた最も効果的な寄付先をインターネットで検索する。

問九 本文中の——線6「共感よりも理性にもとづいて利他を行うことが重要である」理由に関連して、筆者は同じ本の別の箇所において左の通り述べている。「共感」と「理性」は、左の文章の空欄 P 〓 R のうち、どこに入るか。最も適切な位置を次の各群の①～③からそれぞれ一つずつ選べ。

想像しがたい膨大で複雑なネットワークを前にして、合理的利他主義や効果的利他主義が「 P 」を強調するのは、ある意味では当然です。

つまり、地球規模の危機は、「 Q 」では救えないのです。なぜならそれは、想像もできないような膨大で複雑な R によって起こっている危機であり、「近いところ」に関わろうとする Q では、とらえることができないからです。

だからこそ、人間は、 P によってこそ、地球を救うことができる。

問十 本文を以下のように四段に分けた場合、第三段はどの部分になるか。始まりと終わりの段落番号をそれぞれ答えよ。

19 20 21 22 段落から 段落まで

第一段…利他がらいが考える利他

第二段…合理的利他主義

第三段…効果的利他主義

第四段…共感を否定する「数字による利他」

〔Ⅲ〕を解答する場合には、必ず解答用紙(マークシート)の〔Ⅲ〕に記入してください。
誤って解答用紙の〔Ⅱ〕に記入した場合には、0点となるので注意してください。

〔Ⅲ〕 次の文章を読んで、後の間に答えよ。これは『蜻蛉日記』の作者が心を慰めるために琵琶湖の西岸にある唐崎にお祓いをおこないに出した場面である。

関の山路あはれあはれとおほえて、行く先を見やりたれば、行方も知らず見えわたりて、鳥の二つ三つ居たと見ゆるものを、しひて思へば、釣舟なるべし。そこにてぞ、え涙はとどめずなりぬる。いふかひなき心だにかく思へば、まして異人はあはれと泣くなり。はしたなきまでおほゆれば、目も見あはせられず。

行く先おほかるに、大津の、いとものむつかしき屋どもの中に、引き入りにけり。それもめづらかなるこちして行き過ぐれば、はるばると浜にいでぬ。来しかたを見やれば、湖面に並びて集まりたる屋どもの前に、舟どもを岸に並べ寄せつあるぞ、いとをかしき。漕ぎゆきちがふ舟どももあり。行きもてゆくほどに、巳の時果てになりたり。しばし馬ども休めむとて、清水といふところに、かれと見やられたるほどに、大きな棟の木ただひとつ立てるかげに、車かきおろして、馬ども、浦に引きおろして、冷やしなどして、「ここに御破子待ちつけむ。かの崎はまだいと遠かめり」と言ふほどに、幼き人ひとり、疲れたる顔にて寄りゐたれば、餌袋なる物とりいでて食ひなどするほどに、破子もて来ぬれば、さまざまあかちなどして、かたへはこれより帰りて、「清水に来つる」と、おこなひやりなどすなり。

さて、車かけて、その崎にさしいたり、車引きかへて、祓へしにゆくまに見れば、風うちふきつつ波高くなる。ゆきかふ舟ども、帆引きあげつついく。浜づらにをのこども集まりあて、「歌つかうまつりてまかれ」と言へば、いふかひなき声引きいでて、歌ひてゆく。祓へのほどにぞ、はしたになりぬべくながら来る。いとほどせばき崎にて、下のかたは、水際に車

立てたり。あみおろしたれば、「しきなみに寄せて、なごりには、なし」といふるしたるかひもありけり。しりなる人々は、落ちぬばかりのぞきて、うちあらはすほどに、天下の見えぬものども取りあげまぜて騒ぐめり。若きをのこも、ほどさし離れて、並みあて、「ささなみや志賀の唐崎」など、例のかみごゑふりいだしたるも、いとをかしう聞こえたり。風はいみじう吹けども、木陰なれば、いと暑し。いつしか、清水にと思ふ。

ふりがたくあはれと見つつ行き過ぎて、山口に至りかかれば、申の果てばかりになりたり。ひぐらしさかりと鳴きみちたり。聞けば、かくぞおほえける。

なきかへる声ぞきほひて聞こゆる待ちやしつらむ関のひぐらしとのみ言へる、人には言はず。

走り井には、これかれ、馬うちはやして先立つもありて、いたりつきたれば、先立ちし人々、いとよく休み涼みて、こちよげにて車かきおろす所に寄り来たれば、しりなる人、

うらやまし駒の足とく走り井の
と言ひたれば、

清水にかけはよむものは

近く車寄せて、あてなるかたに幕など引きおろして、みな降りぬ。手足もひたしたれば、こち物思ひはるくるやうにぞおほゆる。石どもにおしかかりて、水やりたる樋の上に、折敷ども据えて、もの食ひて、手づから水飯などするこち、いとたち憂きまであれど、「日暮れぬ」などそそのかす。かかるころには、ものなど言ふ人もあらかしと思へども、日の暮るれば、わりなくてたちぬ。

行きもてゆけば、粟田山といふ所にぞ、京より松明持ちて人來たる。「この昼、殿おはしましたりつ」と言ふを聞く。いとぞあやしき、なき間をうかがはれけるとまでぞおほゆる。「さて」など、これかれ問ふなり。我はいとあさましうのみおほえて来着きぬ。降りたれば、こちいとせむかたなく苦しきに、とまりたりつる人々、「おはしまして、間はせたまひつれば、

ありのままになむきこえさせつる。』などでか、この心ありつる。悪しうも来にけるかな』となむありつる』などあるを聞くにも、夢のやうにぞおほゆる。

またの日は、困うじ暮らして、明るる日、幼き人、殿へと出で立つ。あやしかりけることもや問はましと思ふも、もの憂けれど、ありし浜辺を思ひ出づるこちのしのびがたきに負けて、

憂き世をばかばかりみつゝの浜辺にて涙になごりありやとぞ見

イ

と書きて、「これ見たまはざらむほどに、さし置きて、やがてものしね」と教へたれば、「さしつ」とて帰りたり。もし見たる気色もやと、した侍たれけむかし。されど、つれなくて、つごもりごろになりぬ。

(『蜻蛉日記』による)

(注1) 関の山路―一行は山城国(京都府)と近江国(滋賀県)の境にある逢坂山を越えて大津(滋賀県大津市)に下り、清水(所在地未詳)を経て唐崎(大津市唐崎)に向かう。帰路も同じ道程だったと思われ、粟田山(京都市東山区)のふもとで作

者の夫の使者に出迎えられる。

(注2) 御破子―お弁当。

(注3) 餌袋―旅行時の食べ物を入れる袋。

(注4) ささなみや志賀の唐崎―神楽歌「ささなみ」の一節。

(注5) 走り井―逢坂山のふもとにあった、勢いよく水が湧く泉。

(注6) 殿―作者の夫。

問一 本文中の――線1～4の語句の意味として最も適切なものを、次の各群の①～⑤からそれぞれ一つずつ選べ。

1 ものむつかしき

1

① なんとなく寂しげな

② なんとなく手狭な

③ なんとなく魅力的な

2 なんとなくむさくるしい

⑤ なんとなく珍しげな

をかしき

2

① 奇妙である

② 滑稽である

③ 風情がある

④ 見苦しい

⑤ 露骨である

3 あかち

3

① 挨拶

② 議論

③ 検討

④ 配慮

⑤ 分配

4 いふかひなき

4

① かぼそい

② 言葉で言いあらわせない

③ 素晴らしい

④ 取るに足りない

⑤ 耳障りな

問二 本文中の……線A「おこなひやり」とは何をしたのか、最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

5

① 「清水に来つる」ということばを用いて和歌を作らせること。

② 清水に到着した、と留守宅に連絡に行かせること。

③ 清水に到着したので、宴会の準備をおこなわせること。

④ 清水に到着したので、浜辺で身を清める儀式の準備をおこなわせること。

問三 本文中の……線B「騒ぐめり」の解釈として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

① 今にも騒ぎそうだ

② 騒いでいた

③ 騒いでいるのが聞こえる

6

④ 騒いでいるのだろうか

⑤ 騒いでいるようだ

問四 本文中の空欄 **ア** に入る最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 **7**

- ① 辰とら
- ② 寅とら
- ③ 酉とり
- ④ 子ね
- ⑤ 未ひつて

問五 本文中の……線C「なきかへる声ぞきはひて聞こゆる待ちやしつらむ関のひぐらし」の解釈として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 **8**

- ① ひぐらしが競って盛んに鳴く声が聞こえるようだ。関のひぐらしは泣く泣く帰る私を一日中待っていたのであろうか。
- ② ひぐらしは、泣く泣く帰る私を慰めるために盛んに鳴いているらしい。関のひぐらしはもう少し私のことを待っていてほしい。
- ③ ひぐらしの鳴く声が段々と遠ざかっていくように聞こえる。果たして関のひぐらしは私のことを待ってくれるであろうか。
- ④ 私の泣き声は遠くにいるひぐらしにはつきりと聞こえてほしい。そうすればひぐらしも私に同情して待ってくれるだろう。
- ⑤ 私の泣き声はひぐらしの声よりも騒がしく聞こえるだろうか。関のひぐらしはそんな私のことを待っていてくれた。

問六 本文中の……線D「よむものかは」の解釈として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 **9**

- ① とどまってほしい
- ② とどまりはしない
- ③ とどまるかもしれない
- ④ とどまるであろう
- ⑤ とどまるべきだ

問七 本文中の……線a～eのうち、意味・用法の異なるものはどれか、次の①～⑤から一つ選べ。 **10**

- ① 浜aにいでぬ
- ② みな降りぬb
- ③ 日暮れぬc
- ④ たちぬd
- ⑤ 来着きぬe

問八 本文中の……線E「ものなど言ふ人もあらしかし」の解釈として最も適切なものを次の①～⑤から一つ選べ。 **11**

- ① あれこれ言う人はいないだろうよ
- ② あれこれ言う人はいなかっただろうか
- ③ あれこれ言う人はいなかったはずだ
- ④ あれこれ言う人はいなくなってほしい
- ⑤ あれこれ言う人はいなくならないのだ

問九 本文中の……線F「いとあさましようのみおほえて」とあるが、そのように思った理由として最も適切なものを次の①～⑤から一つ選べ。 **12**

- ① 悲しみに暮れていることを理解せずに、使者があれこれと質問してきたから
- ② 昼に来訪があったのに、誰も夫を引き留めなかったから
- ③ まるで自分の留守の間をねらったかのように夫の来訪があったから
- ④ 迎えに来た人がぐずぐずしていたので、夫の来訪が昼にあったことを後で知ったから
- ⑤ 女の所には夜に訪問するのが当時の常識なのに、夫が昼に訪ねてきたから

問十 本文中の空欄 **イ** に入る最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 **13**

- ① き
- ② し
- ③ ず
- ④ つ
- ⑤ ぬ

問十一 次の(1)～(5)のうち、本文の内容に合致するものには①を、合致しないものには②をそれぞれマークせよ。

- (1) 大津に到着した一行は、車を棟の木に停めて舟に乗り換えて旅を進めた。 14
- (2) 唐崎に到着すると、浜辺に地元の男たちがいて一行に歌をうたってほしいとお願いした。 15
- (3) 走り井には馬を早めて先行した従者たちが到着して休んでいた。 16
- (4) 留守の間に来訪した夫は、悪いタイミングで来てしまったものだなあ、と言った。 17
- (5) 「憂き世をば」の歌を幼き人に託して、夫が見ないうちに置いて、すぐに帰って来いと指示した。 18

問十二 次の文章を読んで空欄 [ウ] [オ] に入る語句を、次の各群の①～⑤からそれぞれ一つずつ選べ。

平安時代中期に成立した『蜻蛉日記』は『源氏物語』などにも影響を与えた重要な日記文学であり、その書名は、上巻末に「かく年月は積もれど、思ふやうにもあらぬ身をし嘆けば、声あらたまるもよろこほしからず、なほ [ウ] を思へば、あるかなきかのこちするかげろふの日記といふべし」とあるように、かげろふのイメージに由来する。その文章は「古雅」(本居宣長『古言指南』)と評されているが、作者の [エ] は豊かな歌才の持ち主としても知られ、百人一首にも採られたことで有名な「嘆きつつひとり寝る夜の明くる間はいかに久しきものとかは知る」は、もともとは三番目の勅撰集である [オ] に入集したものである。

- ウ… [19]
- ① ものぐるほしき
 - ② ものさわがしき
 - ③ ものすさまじき
 - ④ ものつつましき
 - ⑤ ものはかなき

- エ… [20]
- ① 赤染衛門
 - ② 和泉式部
 - ③ 菅原孝標女
 - ④ 藤原俊成女
 - ⑤ 藤原道綱母

- オ… [21]
- ① 金葉集
 - ② 後拾遺集
 - ③ 後撰集
 - ④ 拾遺集
 - ⑤ 千載集